

年金トピック

2024 年 6 月 21 日
団 体 年 金 事 業 部

第 4 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の議事要旨について

6月3日(月)に第4回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会が開催され、この年金トピックにて資料の内容をご紹介します。
本作業部会は非公開のため、議論の様子が不明でしたが、今般、「議事要旨」が公開されましたので、別紙にてその内容をまとめております。

資料および議事要旨は内閣官房のホームページに掲載されていますので、以下のリンク先にてご確認ください。

○内閣官房

資料: https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/bunkakai/asset_dai4/index.html

議事要旨: https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/bunkakai/asset_dai4/gijiyousi.pdf

本作業部会の趣旨や論点等については、以前に発信した年金通信(<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/>)をご確認ください。

【ご参考】

第 1 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の開催

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1841>

第 1 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の議事要旨について

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1851>

第 2 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の開催

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1846>

第 2 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の議事要旨について

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1862>

第 3 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の開催

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1866>

第 3 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の議事要旨について

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1877>

第 4 回アセットオーナー・プリンシプルに関する作業部会の開催

<https://nenkintsushin.dai-ichi-life.co.jp/download.php?c=1880>

以上

第4回アセットオーナー・プリンシプルに関する 作業部会の議事要旨について (議事の概要・議論の内容)

2024年6月21日
第一生命保険株式会社
団体年金事業部

一生涯のパートナー

第一生命

 Dai-ichi Life Group

議事の概要

- 事前に委員には事務局からアセットオーナー・プリンシプル(案)が示されており、部会では特段の説明がなく、案に関して委員からの意見が表明されました。
- 委員からは案に対して異論はなく、最終の精査を行ったうえでパブリックコメント募集手続きに入ることについても異論がありませんでした。
- なお、パブリックコメント募集は6月下旬から開始される予定となっています。

議事	原則の内容(赤字下線は当社による)
アセットオーナー・プリンシプル(案)について 【資料1】	<p>原則1:アセットオーナーは、<u>受益者等の最善の利益を勘案し、何のために運用を行うのかという運用目的を定め、適切な手続に基づく意思決定の下、経済・金融環境等を踏まえつつ、運用目的に合った運用目標及び運用方針を定めるべきである</u>。また、これらは状況変化に応じて<u>適切に見直すべき</u>である。</p> <p>原則2:受益者等の最善の利益を追求する上では、アセットオーナーにおいて<u>専門的知見に基づいて行動することが求められる</u>。そこで、アセットオーナーは、原則1の運用目標・運用方針に照らして必要な人材確保などの体制整備を行い、その体制を適切に機能させるとともに、知見の補充・充実のために必要な場合には、外部知見の活用や外部委託を検討すべきである。</p> <p>原則3:アセットオーナーは、運用目標の実現のため、運用方針に基づき、<u>自己又は第三者ではなく受益者等の利益の観点から運用方法の選択を適切に行うほか、投資先の分散をはじめとするリスク管理を適切に行うべきである</u>。特に、運用を金融機関等に委託する場合は、<u>利益相反を適切に管理しつつ最適な運用委託先を選定するとともに、定期的な見直しを行うべきである</u>。</p> <p>原則4:アセットオーナーは、ステークホルダーへの説明責任を果たすため、<u>運用状況についての情報提供(「見える化」)を行い、ステークホルダーとの対話に役立てるべきである</u>。</p> <p>原則5:アセットオーナーは、受益者等のために運用目標の実現を図るに当たり、<u>自ら又は運用委託先の行動を通じてスチュワードシップ活動を実施する</u>など、投資先企業の持続的成長に資するよう必要な工夫をすべきである。</p>

議論の内容(1/2)

- 主なコメントは以下の通りです(議事要旨より作成(要約・赤字強調・注釈は当社による))。

議事	主なコメント
<p>アセットオーナー・プリンシプルのアウトラインについて 【議事要旨】</p>	<p>上田委員(京都大学経営管理大学院客員教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセットオーナーは多様性があるということ、そして、省庁も様々であるということで、なかなか一様の取組は難しかったと思う。それが、<u>今回アセットオーナー・プリンシプルがまとまったことで、最後の残された部分がしっかりと形づくられてインベストメントチェーンがつながった</u>と思っている。 ・アセットオーナー・プリンシプルが策定されると、<u>フィデューシャリー・デューティーを果たすために具体的に何をすればよいのかについて、活動の方向性や指針が提供される</u>と思っている。そのような観点から、アセットオーナーの皆様に活用いただけることを期待している。 ・いろいろな状況変化に対する備えとしてアセットオーナー・プリンシプルを活用されることを期待している。 ・今後の進め方については<u>部会長の神作先生に一任させていただきたい</u>。 <p>菅野委員(東京大学理事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に説明を受けて非常にこなれた文章になってきたと思って、<u>全般的にはこの方向で私は特に問題ない</u>と、結論から申し上げる。 ・コンプライ・オア・エクスプレインはよいが、<u>エクスプレインが形式的になってしまうと意味がないので、いかに形式的にしないのか、どうやってモニタリングをしていくのかということが非常に重要</u>かと思っている。 ・<u>最終的には、ステークホルダーが、自分たちがお金を預けている人たちがきちんとフィデューシャリー・デューティーを果たしているのかということを見られるようにならなくてはいけない</u>わけだが、残念ながら<u>すぐにそこに行けというのは難しいので</u>、それまでの間、このアセットオーナー・プリンシプルの中に書いてあるように、<u>所管の官庁がきちんとその橋渡しをしていくことが大事</u>である。 <p>玉木委員(大妻女子大学短期大学部教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1のプリンシプルの案については、<u>私は大変よいものができたと思う</u>。 ・8ページの脚注の15だが、こちらでは<u>開示のレベル感として定性的なものだけ、それから、運用の概況を定量的に出す、さらにそれを詳しく出すといった3つの段階で書かれており、これは非常に適切な書き方だろう</u>と思う。その中でも<u>最初に書いてある定性的な開示は非常に大事</u>である。アセットオーナーは人様のお金を扱っているので、そういうことについての責任感や気構えが現れてほしい。 ・企業年金であれば、これは既にコーポレートガバナンス・コードの2-6に「企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮」があり、これをぜひやっていただきたい。<u>経営者が企業年金に関心を持って、株主ときっちり対話して、それを踏まえて労使の話が行える、こうなって初めて企業年金という制度の目的が達成されるのだろう</u>。 ・事務局の皆様には、運用力の強化といったものが派手なもの、華々しいものではない、地道な経営努力を要するものであるといったことが世の中に伝わるような説明の仕方、これについてぜひ工夫をお願いしたい。

議論の内容(2/2)

- 主なコメントは以下の通りです(議事要旨より作成(要約・赤字強調・注釈は当社による))。

議事	主なコメント
<p>アセットオーナー・プリンシプルのアウトラインについて 【議事要旨】</p>	<p>野村委員(野村資本市場研究所主席研究員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な論点が盛り込まれており、全体的に異論はない。 ・原則の1～4が、いわば多様なアセットオーナーに関してとても普遍的な内容であるのに比べて、原則の5は少し異なるトーンかと思う。原則5が大いに関係する主体もいるし、そうでない主体もいると思う。 ・原則、補充原則、さらに脚注ということで、3点セットで総体として見ると、結果的に結構高度なプラクティスというか、また、そこに向けた指針のようなものに近い内容になっている印象もある。<u>今後に向けて、コンプライ・オア・エクスプレインの運用の在り方という漠とした言い方だが、こうやればコンプライ・オア・エクスプレインでいけるということが伝わるような工夫も重要になってくるのではないか</u>と思う。 <p>神作部会長(学習院大学法学部教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本となる考え方は、<u>アセットオーナーは、受益者等の最善の利益を勘案して、資産運用やスチュワードシップ活動等を行うということだ</u>と思う。 ・<u>この原則にはフィデューシャリー・デューティーの重要な中核の部分がきちんと全て網羅的に書かれている</u>。注意義務、忠実義務、利益相反の管理、受益者等に対する開示、自ら適切な運用を行えない場合には必要に応じて外部の知見の活用や適切なアウトソースを行うこと、など重要な事柄が全て含まれていると感じる。 ・私も<u>アセットオーナー・プリンシプルの案に異存はない</u>。 <ul style="list-style-type: none"> ・先ほど委員の方からも全面的に賛同をいただいている。<u>修正意見はなく、この原案のまま承認いただけたものと理解</u>している。 ・<u>今後、表現の平仄等についての精査を再度行った上で、パブリックコメントの募集手続きに入りたい</u>と考えている。パブリックコメントで寄せられた意見については、事務局で精査していただいた上で、<u>必要に応じて委員、あるいは関係省庁に相談の上、プリンシプルを最終化させたい</u>と考えている。そのような進め方でよろしいか。(首肯する委員あり)